

事務事業評価における総括

部 局 名	福祉部	記入責任者	内藤 喜之
評価について（現状と課題）			
<p>【事業の達成状況について（現状）】</p> <p>福祉部の政策的事業は 97 事業あり、新型コロナウイルスの影響により、7 事業は実施を見送り実績がないことから、Z 評価としています。S 評価と A 評価を合わせ 76 事業で成果を得られていることから、コロナ禍においても着実に事業を進めています。しかし、やむを得ず事業の中止や縮小等により、指標が達成できず C 評価としたものが 2 事業あることから、引き続き政策・施策目標の達成に向けて、事業の見直しを行う必要があります。</p> <p>【達成できた（できなかった）要因についての分析（課題）】</p> <p>福祉政策課の「コーディネーター配置事業」については、ボランティアセンターにおける基本的な機能として展開していく必要があります。</p> <p>保険年金課の「保険料の収納率の向上に関する事務」については、目標の収納率を上回る結果となりましたが、被保険者数の減少により、神奈川県国民健康保険運営方針において今後ますます高い収納率の目標達成を要求されるため、更なる体制の強化が必要です。</p> <p>生活支援課の生活保護の動向については、世帯数及び保護人員数はほぼ横ばいですが、長期化する新型コロナウイルスの影響により、生活困窮者及び生活保護受給者の増加が見込まれるため、困窮者に寄り添ったきめ細やかな支援を継続して実施します。</p> <p>障がい福祉課のグループホームに関する事務については、利用者への家賃補助等の負担軽減を実施することにより、地域生活におけるグループホームに対するニーズが高まり、グループホームの新設が増え供給量が増加しました。</p> <p>高齢福祉介護課の市営小和田住宅外複合施設整備事業については、施設が完成して小和田地区地域包括支援センター青空の移転が円滑に行えるように支援しました。</p>			
今後の方向性			
<p>【政策・施策目標の達成に向けた今後の方向性について】</p> <p>超高齢社会の進展と新型コロナウイルスの影響により一変した生活環境の中で、市民が抱える様々な社会的課題の解決に取り組むため、新しい生活様式に合わせた公的な福祉サービスの提供はもとより、地域資源の活用や開拓を進め、市民の共助の意識を高めて福祉の場への積極的な参加を促します。また、市保健所をはじめ、関係機関等と連携、協力しながら、様々な分野の福祉施策を推進する部局として結束し、事業を展開します。</p> <p>コロナ禍においても、事業の実施手法や内容を工夫することで、人と人とのつながりを大切にしながら、効果的かつ効率的に持続可能な市民サービスを提供していきます。</p>			